

第1回 斐伊川放水路環境モニタリング協議会

斐伊川放水路事業の概要

平成27年3月24日

斐伊川水系治水対策3点セット

② 斐伊川放水路の建設と斐伊川本川の改修



出雲市・松江市の浸水被害の軽減を目的として、放水路を建設し斐伊川から神戸川へ洪水の一部を分流します。
洪水を安全に流すため、神戸川の川幅を拡げ、斐伊川本川の改修も行います。

② 斐伊川放水路 (H25.6完成)



治水計画の考え方

上流・中流・下流でそれぞれ機能を分担し、流域全体の治水安全度を高めます。



① 大橋川改修と中海・宍道湖の湖岸堤の整備



洪水を安全に流すため、中海・宍道湖の湖岸や大橋川に堤防を築きます。
大橋川の断面が不足する箇所では、掘削や拡幅を行います。

(H23.8より29年振り再開)

③ 志津見ダム (H23.6完成)



尾原ダム (H24.3完成)



下流へ流れる洪水を調整するため、洪水を一時的にダムに貯留します。

斐伊川放水路全景



斐伊川放水路の特長

■河川利用

長浜国引きレガッタ



出雲くにびきマラソン大会



■地域との連携（植樹）

斐伊川放水路1000年の森づくり



■超過洪水にも対応（制水ゲート）

◎斐伊川本川が超過洪水の時でも、制水ゲートを閉めることにより、放水路へ分流する量を計画流量（2,000m³/s）以下に制御する。

■砂河川の河床低下に対応（床版）

◎将来斐伊川の河床が低下した場合でも、床版の一部を切り下げる構造により、長期的に適切な分流比を確保する。

■土砂の捕捉（沈砂池）

◎分流時に斐伊川から放水路に流れ込む土砂を沈砂池に捕捉し、下流への影響を極力抑える。



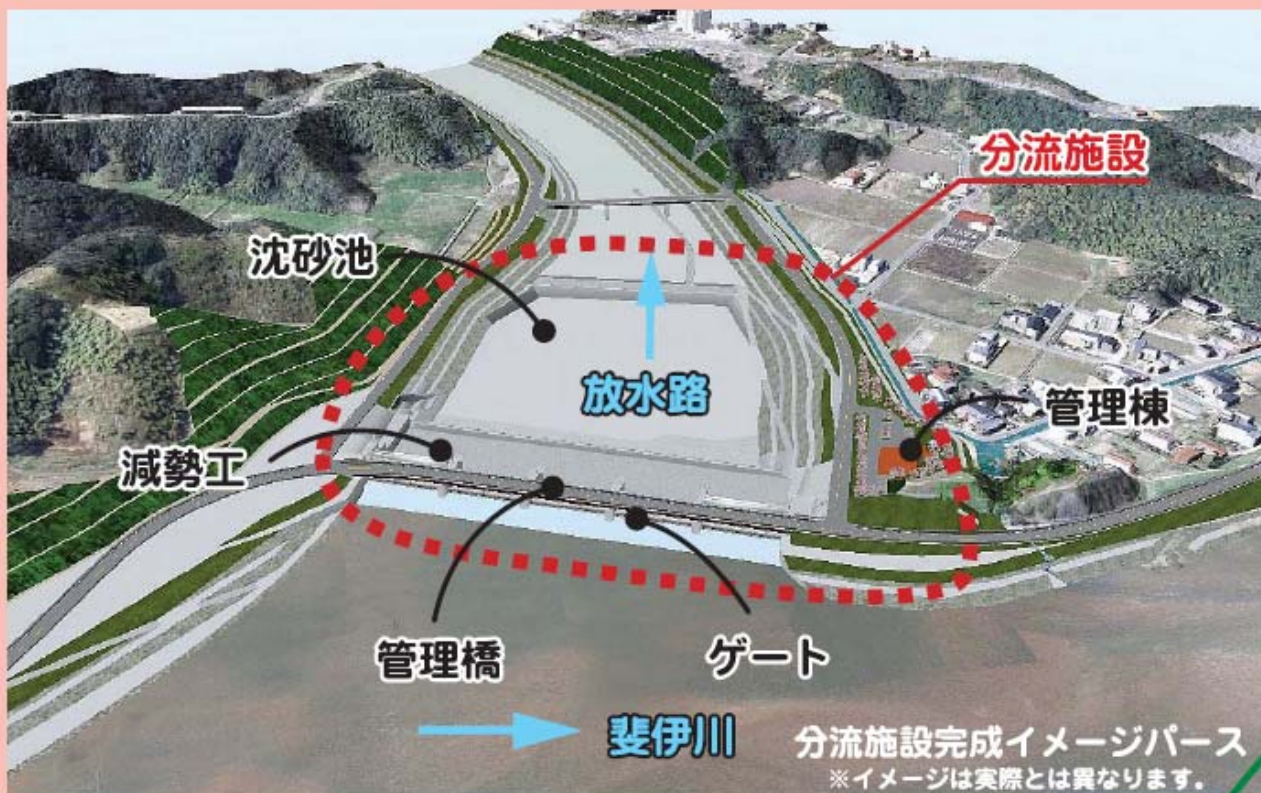
■旧神戸川の水辺を保全



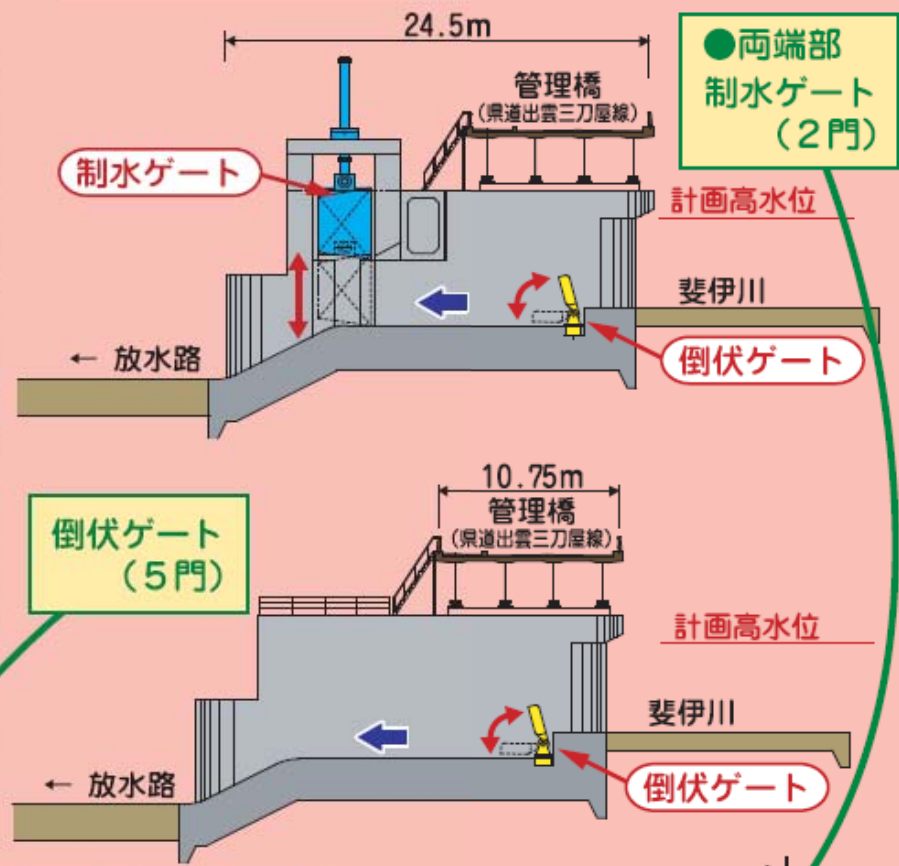
■多様な魚種に対応した魚道（神戸堰）



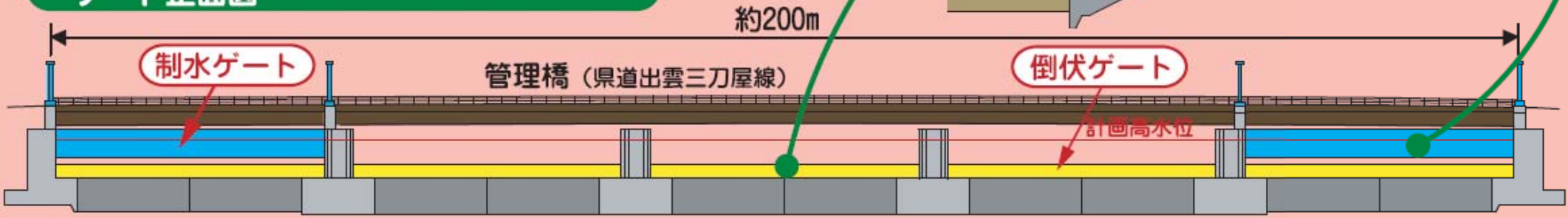
分流堰の構造



ゲート詳細図



ゲート正面図



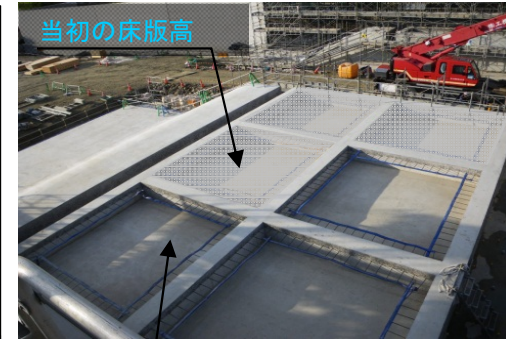
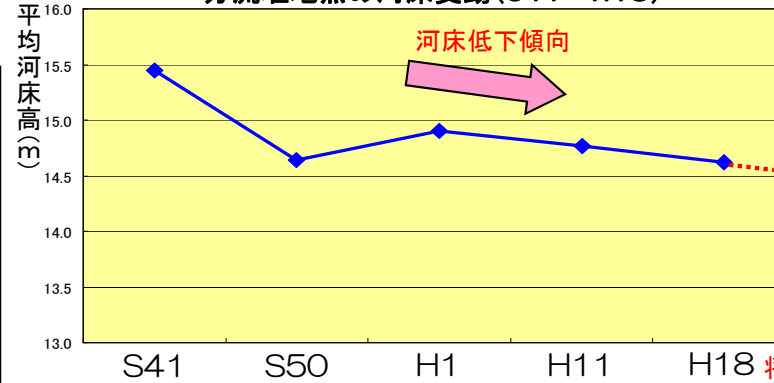
【分流施設計画諸元】 堰長：約200m、制水ゲート：2門、倒伏ゲート：5門、管理橋（県道出雲三刀屋線）：L=約200m、W=10.75m、
沈砂池：1式、管理棟：1式

分流堰の特長

■ 斐伊川の河床低下

- ◎ 斐伊川は全川にわたり砂層。
- ◎ 分流堰地点では河床低下傾向。
- ◎ 今後も河床低下が進行することを想定。

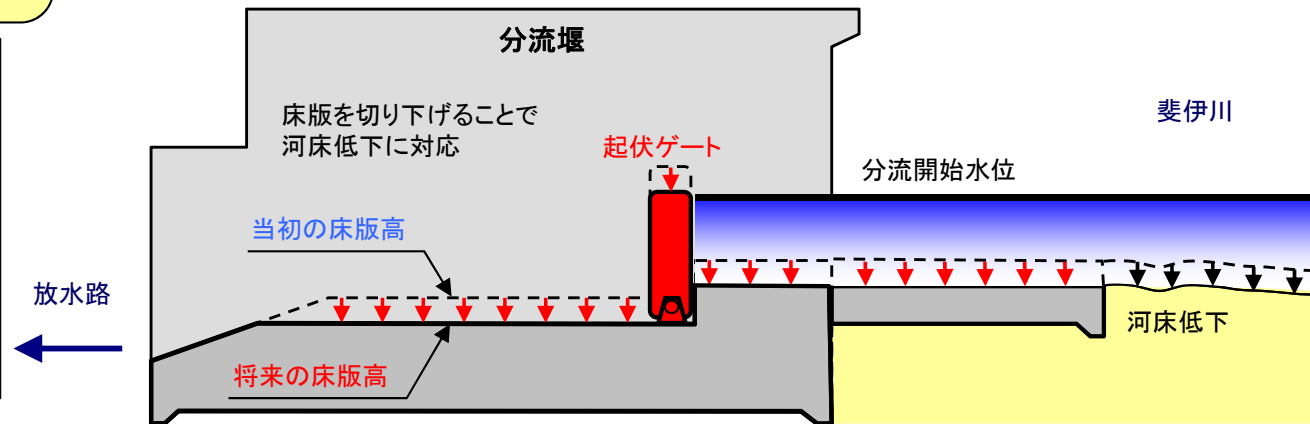
分流堰地点の河床変動(S41~H18)



分流堰床版の施工状況(H22.9)

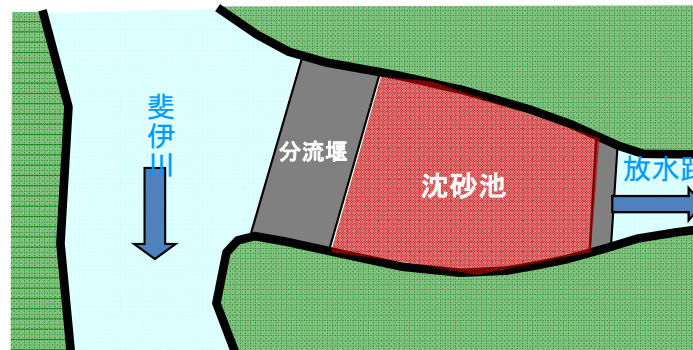
■ 河床低下に対応した分流堰の構造 (床版)

- ◎ 将来、斐伊川の河床低下が生じた場合にも、洪水時に適切な分流比を確保出来るよう、分流堰の床版上面を切り下げ易い構造とした。



■ 土砂の捕捉 (沈砂池)

- ◎ 洪水時に斐伊川から放水路へ流入する土砂を、沈砂池を設け捕捉することにより、大社湾や神戸川の影響を極力抑える。



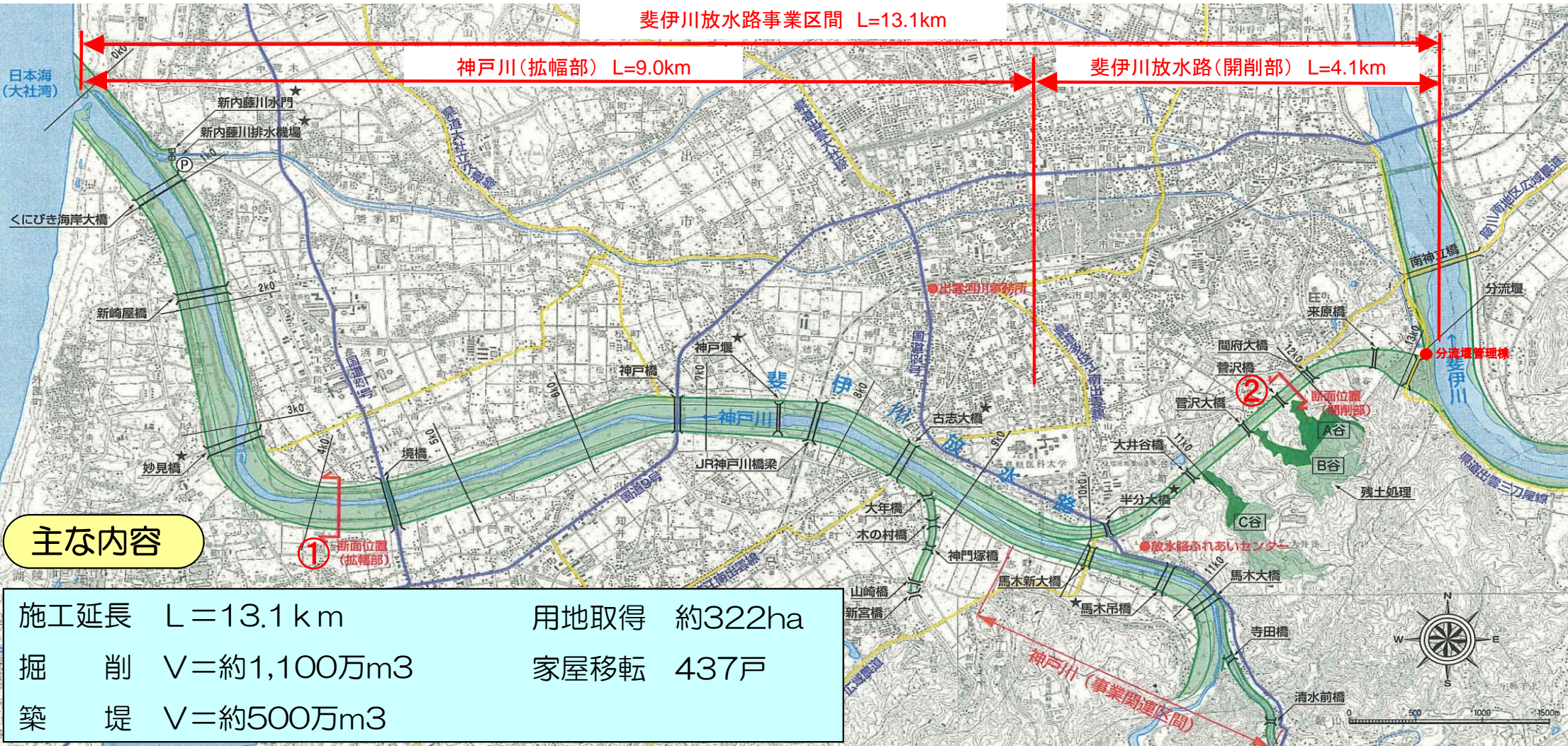
分流堰付近の斐伊川(H23.5)

斐伊川放水路平面図

斐伊川放水路事業区間 L=13.1km

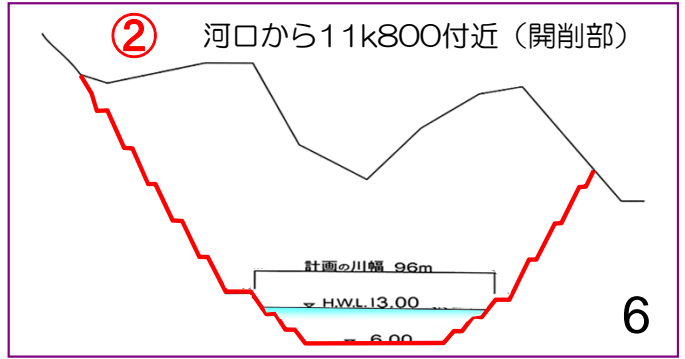
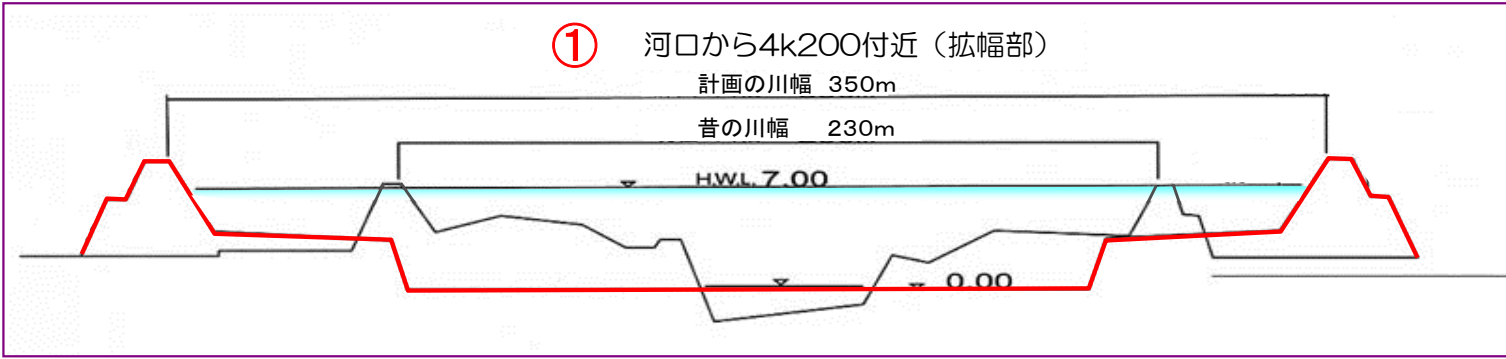
神戸川(拡幅部) L=9.0km

斐伊川放水路(開削部) L=4.1km



主要内容

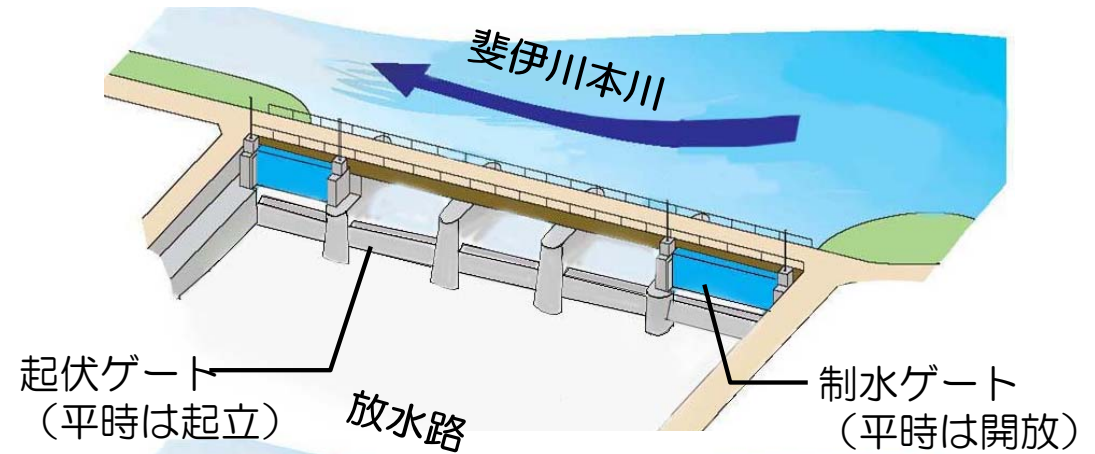
施工延長	L = 13.1 km	用地取得	約322ha
掘削	V = 約1,100万m ³	家屋移転	437戸
築堤	V = 約500万m ³		



放水路への分流条件

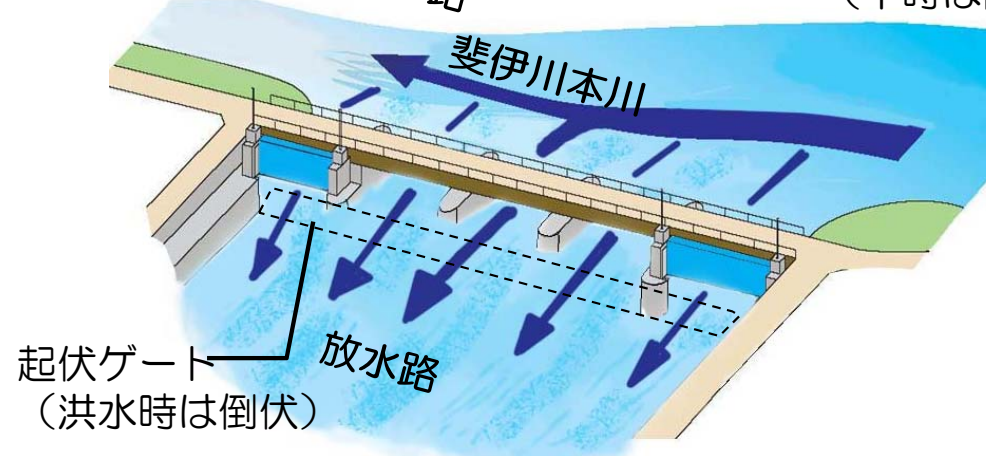
① 平常時（斐伊川本川のみ）

起伏ゲートが閉じているため
放水路には水は流れない



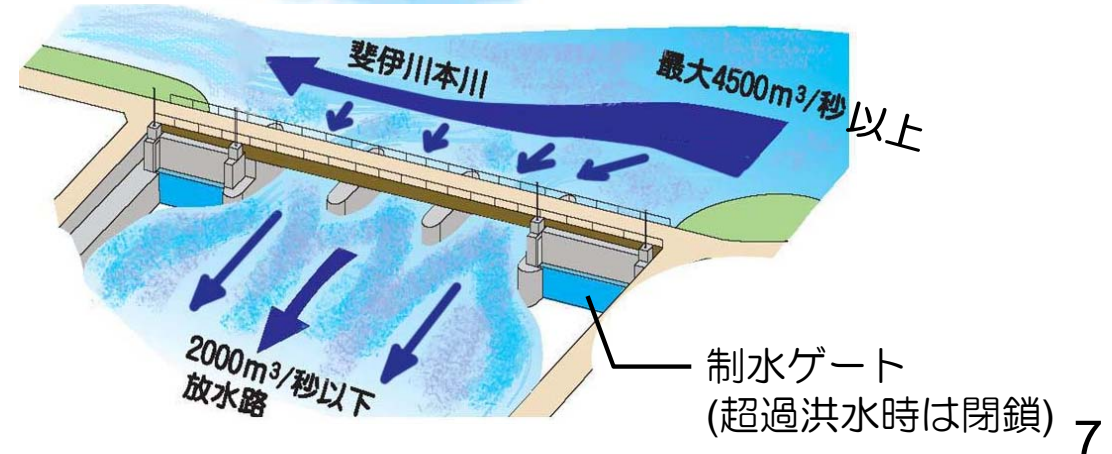
② 洪水時（放水路へ分派）

起伏ゲートを倒して、放水路へ
洪水を分派させる。
(斐伊川本川：放水路 = 5 : 4)



③ 超過洪水時（分派量制御）

制水ゲートを締めて、放水路へ
流れる流量を制御する
(洪水を2,000m³/s以下とする)



斐伊川放水路の整備効果(平成25年9月3~4日)

速報値

○平成25年9月3日から4日の降雨で斐伊川本川の流量が分流堰地点で約400m³/sを超えたため、斐伊川放水路へ分流し平成25年6月の完成後初の斐伊川放水路運用を行いました。

○斐伊川放水路、尾原ダムの運用により、斐伊川本川下流及び宍道湖水位を低減させました。
また、斐伊川本川下流の灘分地点における「氾濫注意水位」の継続時間が18時間から14時間となり、洪水の継続時間を短縮させました。

<斐伊川放水路の概要>

- ◆斐伊川の洪水の一部を神戸川へ分流し、斐伊川下流への洪水流量を低減させるものです。
- ◆昭和56年に事業着手し、平成25年6月に完成しました。

<今回の出水による斐伊川放水路の運用状況について>

- 斐伊川の流量増加に伴い、9月4日午前5時30分頃に分流堰地点で約400m³/sを超えたため、斐伊川放水路へ分流を開始。
- さらに斐伊川本川の流量が増加し、分流堰地点で約500m³/sを超えたため、9月4日午前6時50分より分流堰の操作を開始。
- 斐伊川本川の流量が分流堰地点で約400m³/sを下回ったため、9月5日午前4時10分に斐伊川放水路への分流を終了。

平成25年9月の出水による、斐伊川本川上島地点の最大流量約1,250m³/sを、斐伊川放水路へ約550m³/sが分流しました。
※流量については、浮子を用いて観測した結果です。



※速報値であり今後変更になる場合があります

斐伊川放水路分流堰

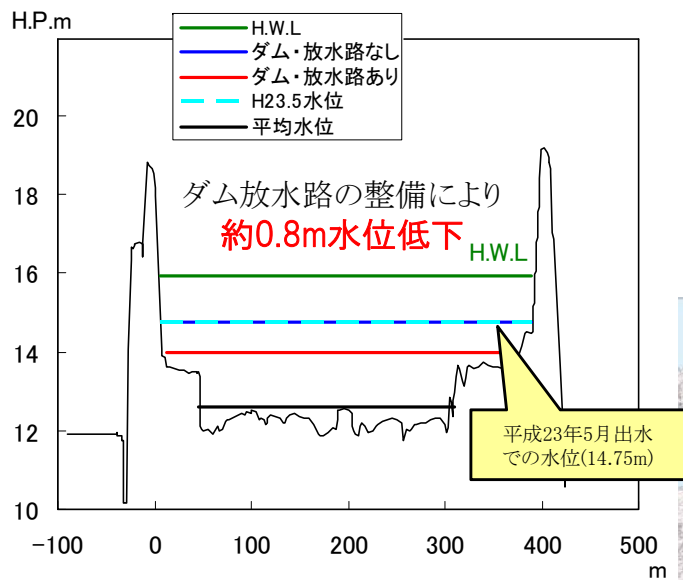
斐伊川放水路(開削部)

平成25年9月出水 斐伊川放水路分流状況

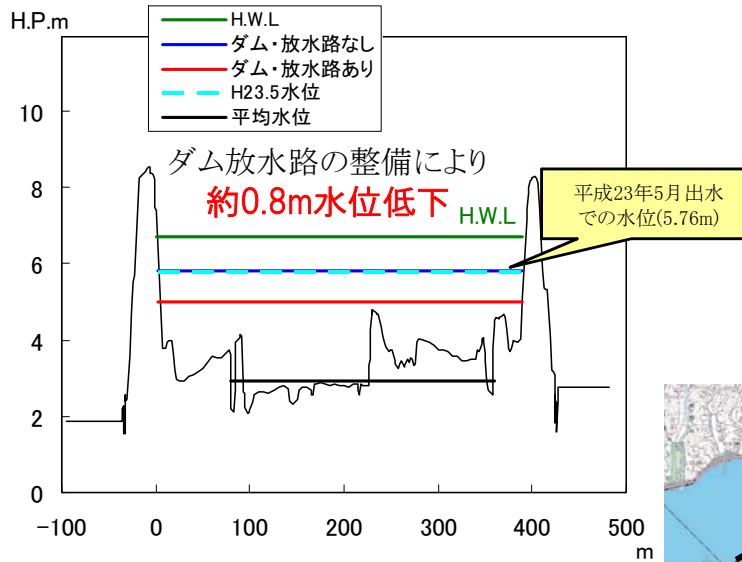
斐伊川放水路の整備効果(平成25年9月3~4日)

速報値

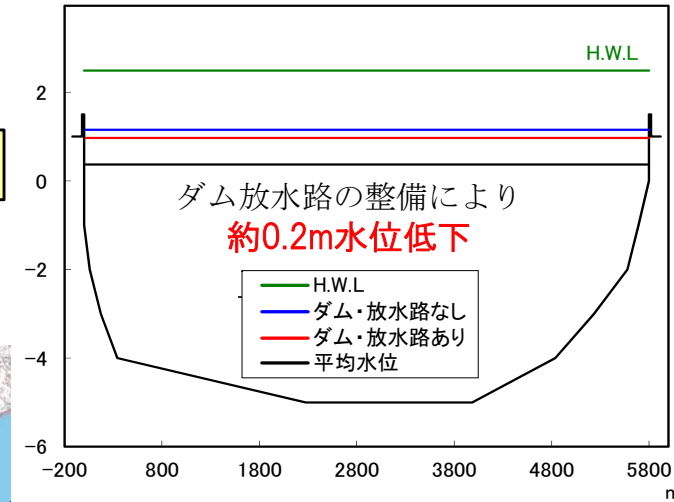
大津地点



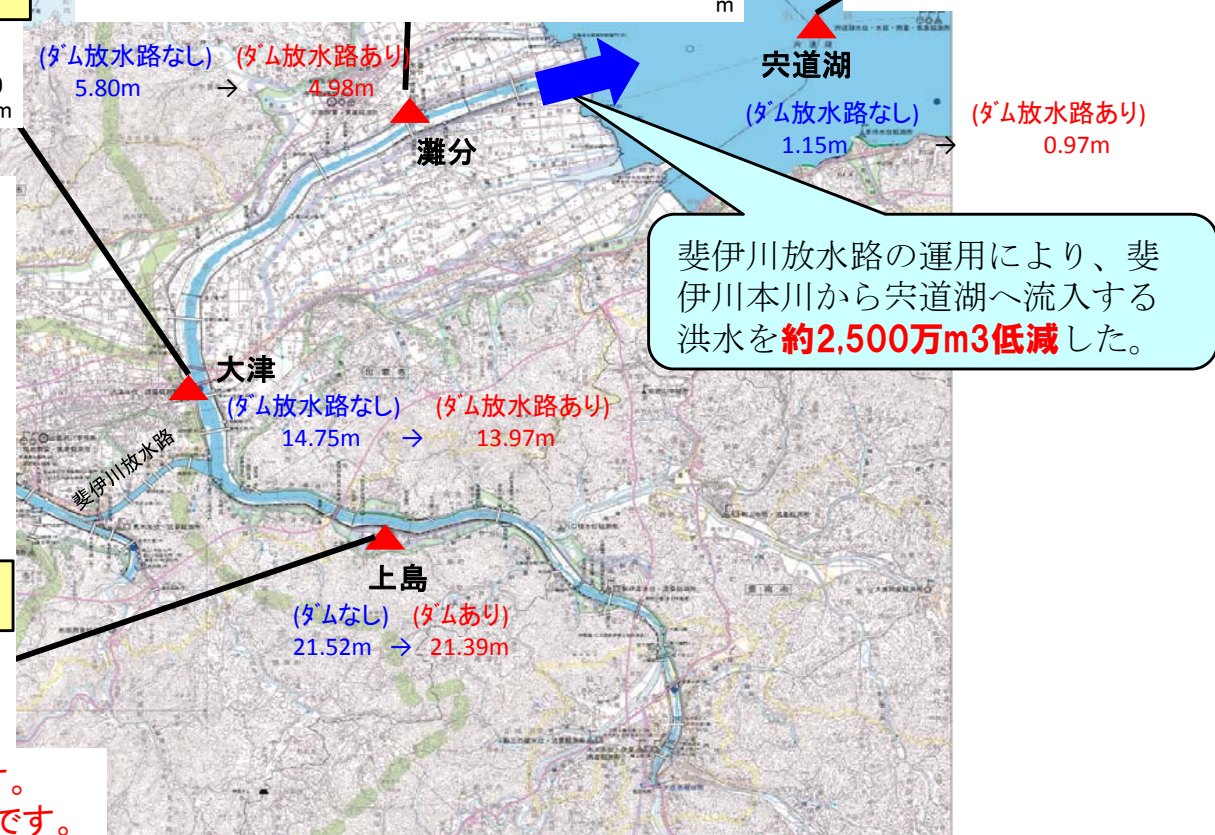
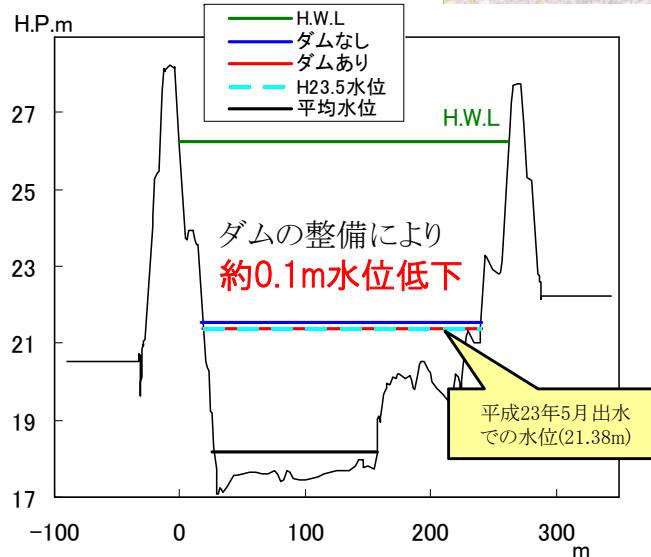
灘分地点



宍道湖湖心



上島地点



斐伊川放水路の運用により、斐伊川本川から宍道湖へ流入する洪水を約2,500万m³低減した。

※速報値であり今後変更になる場合があります。
※ダムなし、ダム・放水路なしの水位は推定値です。